

炭ってすごいよ！！

会津若葉幼稚園（福島県会津若松市）

自然体験をするために「若葉の森」に行く途中で見つけた、炭を作り河川をきれいにしている施設(国土交通省 阿賀川河川事務所)を見学したり、地域の「福島県 森の案内人」の方に、園内で作れる炭作りの方法を教えていただいたりした。そのため、「炭」への関心が高くなり、いろいろな物の炭作りに挑戦したり、炭を使って臭いや水をきれいにする活動をしたりした。(実践事例集 vol.4 の30～31頁参照)

17年度の5歳児

触ると黒くなるから、絵が描けるんじゃない？
木炭庵ひろばみたいに、幼稚園で作った炭も水をきれいにするのかな？
松ぼっくりの炭はきれいだから飾ったら？
木炭庵ひろばで、炭はにおいを取るって教えてもらったよね。
おばあちゃんが炭と一緒にごはん炊いてた。おいしくなるんだって！

試してみる
・炭で絵を描く
・水がきれいになるか実験する

やってみよう！
試す

自分たちにできることは？
考える

炭ってすごいな！
感動

炭の性質に気付く

水がきれいになっていく様子を毎日観察する
木炭庵ひろばと同じだ！
小さな穴が汚れを取るんだよね。
臭いにおいも取るんだよね！



においを取る特徴を活かし、幼稚園の中の「臭いところ」はどこか話し合い、その場所に炭を置くことにする

- ・くさいのはトイレ、靴箱、ザリガニの水槽、赤パッチ黄色パッチ（年少・年中）のトイレにも置いてあげよう！

「森の案内人」の方から、炭を混ぜると畑の土がいい土になると教えてもらう

- ・今度の緑パッチ（次年度の年長）に、「野菜作る時に炭を砕いて畑の土に混ぜて」って教えておこう！

「子どもに言われて家にも炭を置くようになりました」という話が多く伝えられる。

4歳児クラスの子どもから「炭を置いてくれてありがとう」と言われる。



できることがあったよ！
嬉しさ・満足

喜ばれた！
役立った喜び

18年度の5歳児

教わったように炭を砕いて混ぜ、土作りをする。木炭（木酢液）を畑にまくとよいことを知る。昨年の5歳児の「炭作りの活動」で見聞きしてきたことを基に話し合いながら、炭作りを楽しむ。水槽をきれいにしたり、炭をトイレに置いたりする。「炭って何？」と聞かれたら教えてあげる。トイレの炭のことや壊れたら5歳児に知らせることなど、3、4歳児に必要なことを知らせる。小さな炭よりも、しっかりした「木炭」がよいことを知り作る。森の伐採のことを考える。

やってみよう！
試す

自分たちができることは？
考える

教えてあげたい！
伝える

4歳児に伝える

みどころ

幼児でも、自分たちの体験や獲得した情報の価値を自覚し、「知らせよう・伝えよう」という意欲的な思いで、情報の伝達をします。仲間や保育者だけでなく、この事例のように、年下の幼児に「大切な情報」として伝えることは、大切な育ちの姿です。教わった幼児も、感謝の思いをもっています。そうした感謝の思いや思いやりといった「感情・情動」とともに貴重な情報を得たという経験をしているので、次々と受け継がれていくことが期待できます。試す、考える、気付く、感動する、満足する、やり遂げる、大切さに気付くなど「科学する心」の様々な側面が育まれています。